

ロータリー:
変化をもたらすRotary Making A Difference
RI会長 RI ライズリーま
る
が
め

週報

会員数 59 名
欠 席 者出席者43名・欠席者15名・免除会員2名
有家・麻田・馬場・後藤・飯間・和泉・松山・森・中川・
中野昌・野口・崎川・竹内・陶國・山内孝-会員

前々回出席率 71.93%(5/17)

2018.5.31
Vol.55
№43
(2707)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 夏見 良宏
幹 事 和泉 清憲
会報委員長 塩田 等

お知らせ

5月のプログラム

4 (No.1)-お城まつり参加
17 (No.2)-稚魚放流事業
24 (No.3)-新入会員歓迎会
31 (No.4)-会員卓話

他RC例会変更

善通寺 4/18
丸亀東 4/17→4/22
5/1→5/3
坂出東 5/2 休会

ニコニコBOX;

祝誕生月
池田君
よいことがありました
秋山憲君 中野和君
山内光君
娘が結婚しました
和泉君
香川宅建総会で筆頭副会長に
昇進しました。これで将来県の
会長のレールも敷かれました。
RC出席も悪いですがご容赦
ください。
加内君

<ニコニコ会計累積/¥436,000>

がんばるBOX;

出席できなくて
橋君
稚魚放流・お城まつりとご協力
ありがとうございました。おかげ
様で大盛況で終えることができ
ました。
稲田君

■会長挨拶

『超我の奉仕と最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』

満州事変(1931年9月)が勃発する直前の昭和初期、世の中がキナ臭くなり
はじめ、日本のロータリーも、あらぬ誤解をまねがれるために「ロータリーの
日本化」をいそぎました。1928年(昭和3年10月、東京で開催された太平洋ロー
タリー大会で、大阪クラブの土屋大夢が『ロータリー以前の偉大なロータリア
ン』と題して『二宮翁夜話』をし、「その報徳の教えはロータリーと同じである
とし、二宮尊徳を奉仕の理想像と紹介しました。戦後においては、今治ロー
タリークラブの森光繁氏は、「奉仕の理想」とは即ち他人への涙を云うのである。
後に来るものを予期して他人のためにするものは奉仕とは云えない。「与え
て求めず、施して忘れ、只心からなるものを心から他人に与えることが奉仕
である」とし、宮沢賢治をその理想像としていました。(今治RC森光繁「ロー
タリーの本」昭和26年)

<ロータリーの奉仕の理念>

「何処においてもロータリー・クラブにも、一つの基本となる理念を大切に
している、それは他人を思いやり、そして他人のために尽くすことである」

■幹事報告

- ①5月26日に行われた高松東RC50周年記念式典に参加の報告
- ②新入会員候補者、古川芳久さんを公開いたしますので、ご異議がある
方は7日以内に文書にてご連絡ください
- ③丸亀市観光協会より、「丸亀ゆかりの全国物産展inG I 京極賞」の案内

■例会事業;岸上会員卓話

「今日は卓話として『日本で一番大切にしたい会社』と
いう本を紹介させていただきたい。この本を採りあげ
たいと思ったのは、ここに紹介されている会社の姿勢
がロータリーの理念に沿ったものだと感じたからであ
る。日本理化学工業は粉が飛び散らないダストレス
チョークの国内シェアトップの会社であるが、従業員の
7割が知的障がい者である。最初は近くにある養護施
設よりの依頼で、同情心から雇用したものであるが、
その熱心な仕事への取り組みぶりをみて、感銘を受け、徐々に知的障がい者
の雇用が拡大したようだ。勿論、彼らの苦手な業務内容というものも当然ある
訳だが、会社側も作業工程を見直すなどして、もはやボランティアではなく、
会社に欠かせない人材として彼らとの関係が成り立っている。

(裏へ続く)



2018.5.31

Vol.55

No43

(2707)

先日の夜間例会欠席すみません。

塩田君

昨日誕生日を迎え49歳になりました。昔からしじゅう苦しみが付きまとうと言われていますがこの一年苦を幸せに変えて頑張ります。

吉田君

<がんばる会計累積/¥381,310>

伊那食品工業は寒天・ゲル化剤の製造販売を行う会社であるが48年にわたって増収増益を続けている。しかしその経営理念は決して目先の利益追求ではなく、長い目で会社の成長を考えている。会社の敷地内には地域の人々が利用出来る公園を設けたり、安全な通学に必要な歩道橋を寄贈するなど地域への貢献を重視する姿勢は、通勤時の気配りなど従業員にも行き渡っている。

中村プレイス株式会社は人口400人の島根県大田市大森町に本社を置く、義肢・装具や人工乳房などを製造する医療機器メーカーである。創業者で代表取締役の中村氏は京都と米国カリフォルニア州での義肢装具製作の研修・留学を経て、郷里である大田市大森町にUターンして起業し、過疎化の進む地域の再生に尽力を続けている。また製品づくりには効率にこだわることなく取り組み、その技術力は世界的な評価を受けているが、若い社員には単に技術を教えるのではなく人をつくるということにこだわっている。

私はこの本を読んで会社経営においては「社員とその家族」「社外社員とその家族」「現在顧客と未来顧客」「地域社会・地域住民」「株主・出資者」の5人を幸せにすべきであり、企業に求められるものは「『会社に関わりのある人』全てに優しさを提供すること」である、と感じた。」